

航空記録

22

日

記

昭和17年 2月11日 ~ 3月2日

一部四年
柳野 徳

所屬
氏名

二月十一日 月曜 日 晴

今日は四第^ノ御^ノ郎^ノの中^ノの^二の^一紀元節^ノだ。又
此^ノは四年の面會^ノ日^ノだ。九時^ノ半^ノから、舞臺
式^ノがあつた。又此^ノがすゝでから、面會^ノ開始^ノされ
た。いくら待つても来^ノない。だ^ハい^ハく賜^ノしてお
る^ハと有賀先生^ノが、おぼ^ノんに御下賜^ノの袋^ノ
を^ハ入^ノれ^ノて持^ノつていら^ノつ^ノし^ノや^ノつた。あ^ノた^ノち^ノは、
外^ノと^ノち^ノを^ハぬ^ノぎ^ノ、ち^ノん^ノど^ノい^ノす^ノに^ハ置^ノけ^ノた。
さ^ノう^ノし^ノて、御歌^ノを奉^ノ唱^ノして^ハあ^ノり^ノが^ノた^ノく^ノい
た^ノだ^ノい^ノた。又^ハれ^ノだ^ノい^ノび^ノに^ハ持^ノつ^ノて^ハお^ノた。
け^ノい^ノか^ノい^ノけ^ノい^ノほう^ノに^ハな^ノつ^ノた。

午後^ノから、面會^ノを^ハし^ノた。い^ノつ^ノも^ノの^ノ面會^ノ
日^ノより、つま^ノら^ノな^ノい^ノや^ノう^ノな^ノ氣^ノが^ノし^ノた。そ^ノ
う^ノし^ノて、御下賜^ノのお菓子^ノを^ハお^ノ上^ノげ^ノし^ノた。
も^ノう^ノ手袋^ノも^ハあ^ノめ^ノあ^ノげ^ノた。

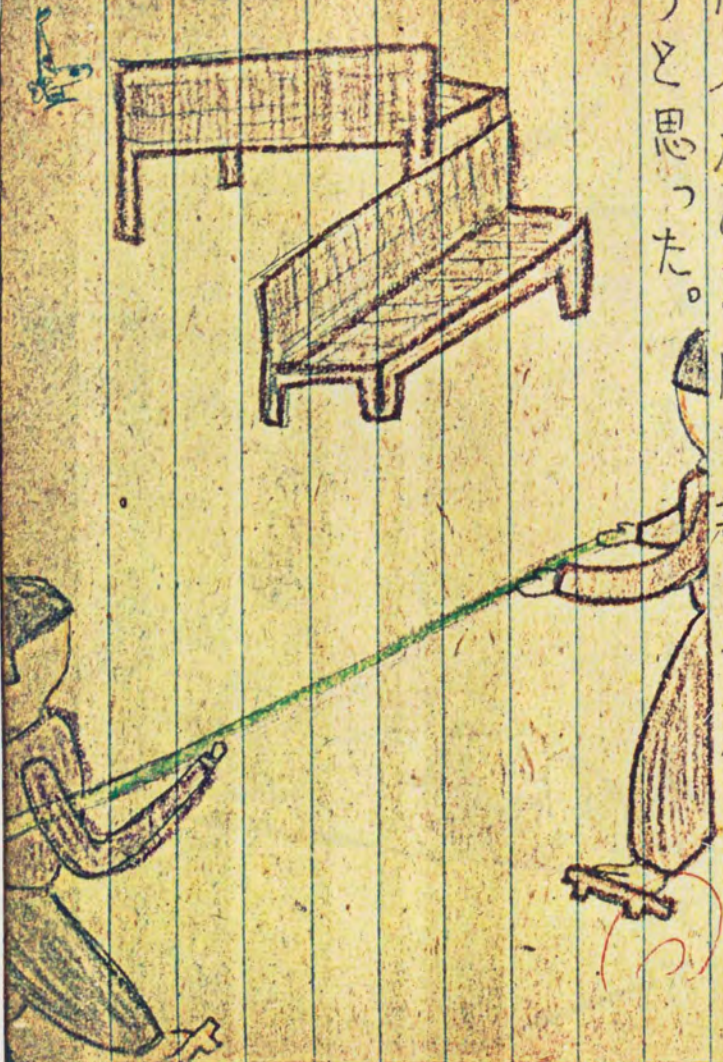


④



二月十二日 月曜日 晴

一時間目のお修身の時は、雅澄の研究といふところをお習ひしてゐると、けい戒警報が発令された。四時間目の体操の時は、女子學校の林へ行つて、棒押しをした。三人抜いた。次は、棒引きだった。高橋さんとしてーぺんに負けてしまった。残念だった。圖画の時は、雪合戦の繪を書きあげた。ぬは、あと色をぬるだけだった。今度の時間で書きあがるだらうと思つた。



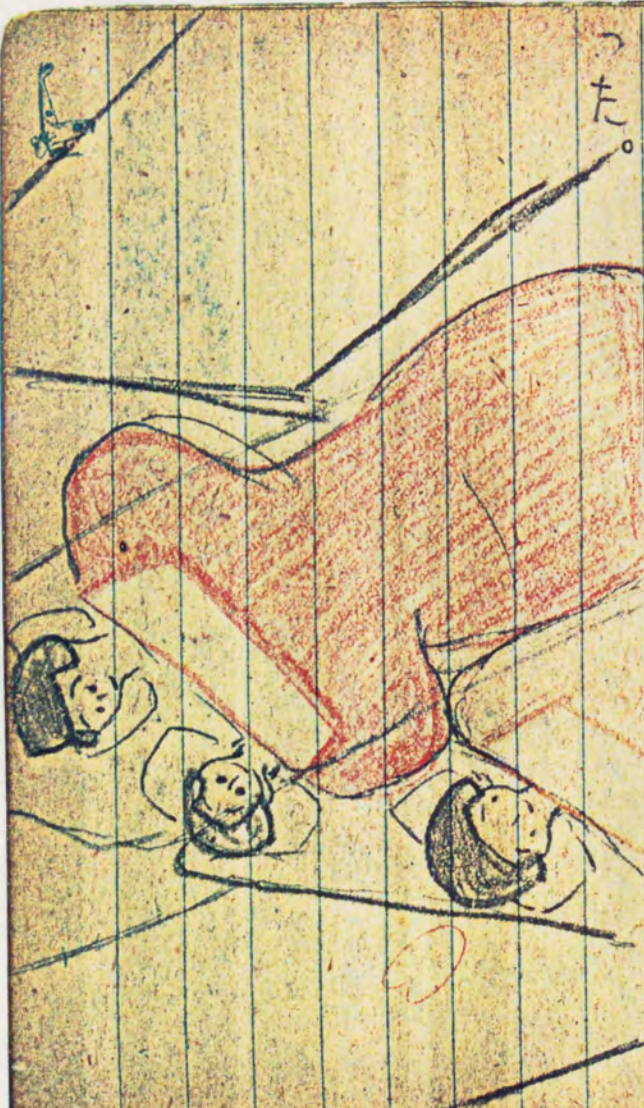
二月十三日 火曜日

三時間目は、音楽で聴音の聴こいふ字を教へていた。途中で、藤先生が自習聴音した。藤先生が自習聴音して、いらっしゃって下さい。とおっしゃった。廣瀬中佐をひと通り歌つて、先生はすぐ教官室にいらっしゃった。歌。お習字の時間には、お清書を返していただいた。それから、おてんを付けていた。だくので又お出した。それから治れうをしていた。たいた。ついでに、かぜ薬もいただいた。その時、お清書を返していただいた。見ると、良下だった。なので、今度こそしっかりとしなければならぬと思つた。



二月十四日水曜日 臨風

今日は、朝から氣持がわるかゝた。有賀先生に申しあげると、近藤先生に聞いてもらひたい。とあつて、先生室にはいって、静かにしてゐた。少ししてから、部四年のお部屋に行つて、坂口さんと、岩田さんの間にはいってゐた。それから、坂口さんと、天井を向いて、あそびに鳥みたいのがある。とか、あそびに、たぬきみたいのがある。などといつて、いろいろなもやうをさがした。晩片山先生に御歌のふしを、つけて歌ひながら、私たちに教へて下さつた。



二月十五日水曜日 曇

岩丸先生の修身の時は、火鉢のまはりに集つてエふうしたり、火をみんなであこす事をしてから、机にもどつて、先生のお話をお聞きした。体操の時間は、はじめかけ足をして、それから、あんぶ鬼ごつこをした。私は、前野さんをあぶつた。とても重いので、にげにくかつた。それから、体操をして、から、中ぶつけをした。私は、始め中だつたが、當たりしつゝ、外に出たりした。とても面白かつた。



二月十六日 金曜日

「ドーン。ドーン。」太この音といっしょに、起床した。とっとおねまきをぬいでみると「ポーポー」と警戒、警戒、警戒のサイレンが鳴った。少しすると「ドドーン。ドドーン。」とたましい高射砲の音。たいひたいひ。と先生が追ひたてるやうにおしやうた。すぐたいひした。

お部屋の中にはいつて朝食をいただいた。それから少しおしやうた。洗面した。それから又どうの中にはいつた。朝食がすんだのが十一時位だった。きうだ。ずいぶん分をえかうた。と思った。晩宿舎へおしやうた。少しおふとんの上で遊んでおねまきと相田さんと有松さんが、防空の身じたくをして本部に集合よ。と教へて下さった。すぐ行った。八百屋さんのお家より少し行った所まで、いろいろな歌を歌ひながら、行進した。

リかけ足をしたりした。のでとてああたためくなった。それから大きな聲で我等は日本少國民だぞ。とかいろいろな事をどなった。それから、女學生の宿舎へ歸った。



二月十七日 土曜日

御あいさつの時「ドドーン。ドドーン。」と音がしたのですぐたいひした。何も防空服さうをしておねまきなので、すきすきにすわった。有賀先生が私たちの防空頭布を持って来て下さった。やっぱり先生といふものは有かたものだと思った。みんな「お腹がすいた。」とか、「どががはいた。」とかいってゐると、「食事

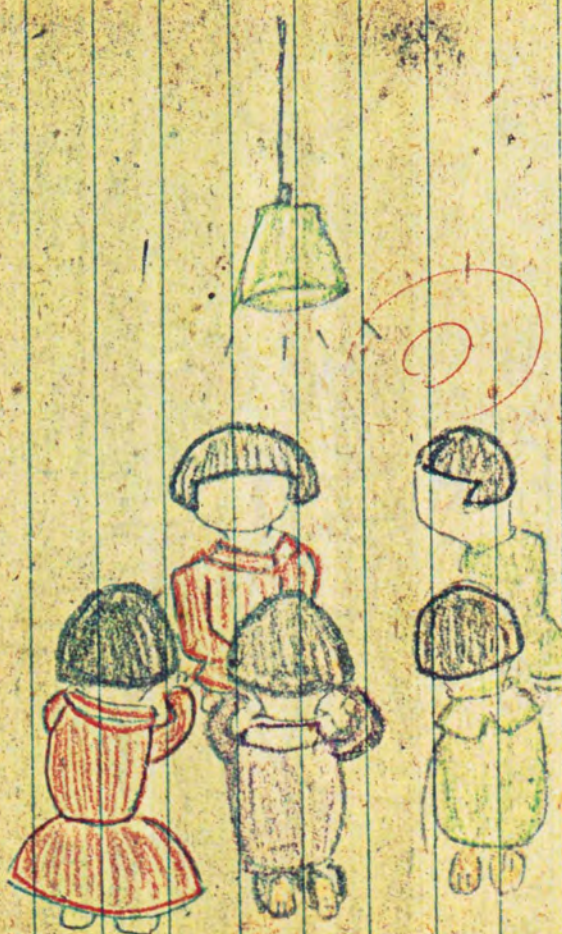
當番の方出ていらつしやう。とあつしやうした。
高橋さんと階段の所へ行くと山口先生
生だった。おしつを持って、私たちにお渡
しになりながら「もしか餘りたらお降ろ
にまはしなさい」とあつしやうした。「はい」とい
つて中にはいつてあつしやうなまのあまぎ
りを分けた。三角のや、丸ののがあつた。
おなだがすみてゐたので、いつもよりず
つとおいしかった。二つたべなと、だいぶお
なかがいっさいになつた。

夕御飯の少し前に、あい隙になつたの
で、園舎の中で御飯をいただいた。



二月十八日日曜日

今日は五年生の面會日だ。午前中
は日記を書いた。晝食がすんでから、
女學校へ行つて、下着をとりかへてめ
ら、圖師さんといつしやうに、お洗濯をし
ました。稲垣さんが前で見ていらつしや
うた。今日こそは、きれいだし、ようと思つ
て、一生懸命にあつた。ゆすいでから
干した。それから御飯まで日記を書い
た。晩宿舎へかへ、マサキな揃つてから、
歌の會をした。私は、加藤はやぶさ歌
とう隊の歌を歌った。



二月十九日 月曜日

朝めけ足をこしながら、永道の所まで行く途中、床屋さんにあった。

一時間目は有賀先生がまだ歸っていらっしやらないので日記を書いた。

二時間目はしけんがあった。いつもするもんだいよりもずつとやさしいのでどんどんはかどった。あと三だいで

出きるとき先生が、おやめなさい。とおっしゃった。出してから、床屋さんをしていただいた。先生がおしけんにもなをつけて下さった。みんな四人とも出きた。

温度表もつけた。



二月二十日 火曜日

算数の時間は、五十一頁のイロイロナ問題をした。五番まではやさしかったが、六番の二つ目のもんだいがむづかしくて、むづかしくて困ってしまった。とうとうかきあがれなかった。

三時間目は北うえう所へ体重をくついで行った。一部四年の人、みんなすこしづつ重方がへってしまった。私は

29.1kg になって、0.2kg だけへってしまった。近藤先生が、こうりやん飯はにくらしき。といていらっしやった。

午後は、お習字で、引流しを練習した。向かふの松林のゑを書いた。



二月二十一日水曜日

朝會の時防空頭布を持って並んだ。さうして、まきを取りに、東村山の駅に向かった。配給所につくと、あまりよいまきがなく、向かいの附近に、いまきがあるから、案内してもらって午後とりに行く。と先生がおっしゃった。まはれ右をして引きかへした。

御飯少し前にたつて、そのままで、なはを持って集合とあつたので行った。線るをこゑてまきの所についた。かへりは、えんなにこんなでもなかつた。お母様からのひきしぶりのお手紙が来たので、とびあがるほどうれしかった。



二月二十二日水曜日

朝方御手洗へ行く時廊下の窓が、とても明かるかった。

御あいさつがすんでから、防空どうへ、いすを取りに行つた。いすを運んでから、圖師さんといつしよに、バケツに水を汲んで、いすの足をふいた。つめたくて、手がちぎれさうた。たほるで、ふきふきした。岩田さんや、高島さんが、「たいへんねえ」とか、「ごくろうさま」とかおっしゃりながら、いすのふいたのをあげて並べて下さつた。私はとてもいい人だな。と思つた。岩田さんが、「私がいい」といってあげながら、早く洗面していらつしやいよ。とおっしゃつた。ので、そのことばに甘へて、ちやごめんなさいね。といつて、洗面器を取りに行つた。圖師さんといつしよに洗面した。おくねてはみなさんにわるいと思つて、口はゆすぐだけにした。



お部屋へあがつて来ると、稲垣さんが、私の方々にらむやうに、「今日の朝の食机、どあれ」と、へんな顔をして又私の顔をじろじろ見た。私はあきれてしまった。

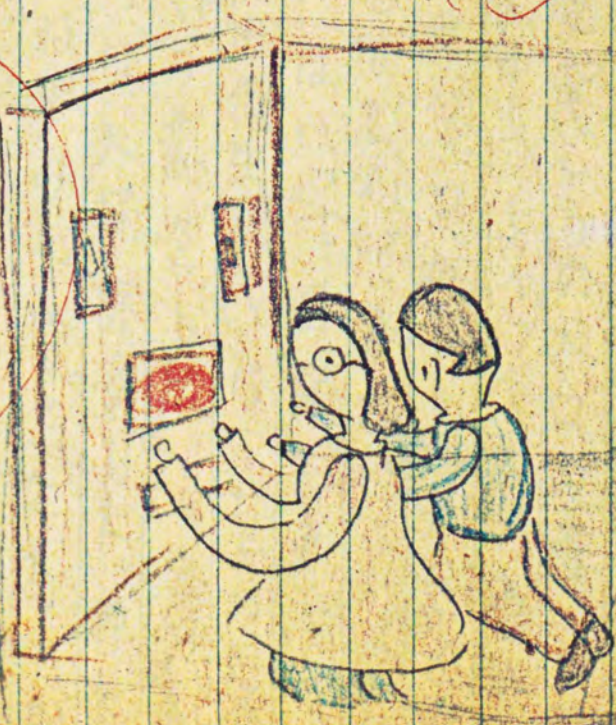
先生が御飯の時御食事がすんだらすぐお風呂たきですから女學校へいらっしゃい」とおっしゃった。

御飯すんでから、岩田さんといっしょに行つた。水汲が船まつた。きつき私に朝の食机のことであんなにいつた。稲垣さんが、バケツの運ぱんをなさないの、人にばかりいふよりは、先づいふ、こうだと思つた。

四時間目の途中から、お風呂へはいつた。稲村さんがちよつとのこと、で、泣いたので「泣くのおよしなさいよ」といふと「泣いてなんてぬないわよ。ずねぶん矢張り」とちあこりになつたので、人がやさしくいつた時は、そんなこと

人のみ見て我がみ直せ

をいはなくともよいのに」と思った。



二月二十三日金曜日

朝會の時、紅白に分かれて、雪合戦をした。私たちのさう大將は、菅村先生だった。有賀先生も高田先生も敵だった。うんとねらはうと思つた。一回戦と三回戦に勝つた。こないだよりも、ど面白かつた。

すむと、今までつめたかった手
も足もぽかぽかとして来た。

それから又日記を書いた。今ま
でたまつてゐたのが、だいぶおつてい
て来たので、とてもうれしかった。

午後は、五六年が、お米の配給に
いらした。私が御寺先のかへ
りに、ときさひがどんどんと學校の
前の道をどんどんかけていらつし
やうた。みんなにいろと、大さねぎに
なつてしまった。



二月二十四日土曜日

朝會の時はき物のことで、阿部
先生のお話があった。それから、シヤ
ベルで、防空ごうの入口の雪をか
いだしたり。中にはいつてゐる雪を
出した。それから、夜中の防空ごう
から、机もはこんで来た。

お部屋にはいつて、日記を書いて
ゐると、高田先生がいらつした。たの
で國語のやう意をした。

午後からは、大掃除をした。押し
入れから、ぬすみがめじったあとの
お牛玉の大豆などが出て来た。

ぬすみもいかにげんに日本のを
ひいて行かないで米英の物でも
ひいて来ればよいのに。と心の中
でつくづく思った。

荷物がかたづいてから、有賀先
生に、かめの毛をすゐていただい
た。まだ針巻をしなくてはいいけ
ない。

鳥

鳥

とおっしゃったのでいやになつてしま
 った。本部に歸るとお掃除
 をしたばかりなので、とてもき
 れいだった。岩田さんが、「こんな
 きれいなのに、きたない長ぐつを
 ぬぐのはもったいな。」などと
 いらっしゃった。まもなく日記が
 書きあげられた。それからえり
 まきにせいを出した。どんどん
 なるのでうれしかった。晩の食
 事で、さっき出て来た三輪田先
 生のおごうきんを三回ゆすいた。
 とてもきれいになった。



二月二十五日日曜日
 今日はまだ六年の面會日だ。こ
 の間が四年だったのは、ずいぶん早
 いものだと思ひながら、お部屋
 のお掃除をして、野村さんと
 いっしょにお公園を出ると、ポ
 ーと警戒戒厳言報のサウレレが鳴
 り出した。有賀先生、警戒戒厳言報
 です。と思はげやんだ。それから
 あみ物を持って、またこらほいさ
 とかけ出した。向部先生が、食器を
 持って行け。とおっしゃったので、食
 器をあみ物に代へて持って行った。
 こうにはいつてゐると、喜門先生が、
 おひつをきつて来下さった。この間は
 こりやんの御飯だった。今度は、白
 い御飯だった。小皿につけていただ
 いた。とてもほしかった。
 どうどうえりまきがあみあげら
 れた。とてもうれしかった。晩女學

鳥

卓

鳥

校に歸つて本を讀んでゐると有
 賀先生と高田先生が、お火鉢を持
 つて來て下さった。その中のすみは
 かんかんにおこつてゐた。私はあたり
 ながら、先生の手袋や、自分のたび
 をかかはかした。たびをあたためて
 すぐはくと、あたためて氣持が
 よかった。夜高田先生に紅いノート
 を讀んでいただいた。級長のふさ
 子や、ふく級長のふさ子や、るり
 子のやうに心のやさしい人にな
 らうと思つた。

お手本にして生活
 をも行きませう



二月二十六日月曜日
 朝食がすんでから、いすをこ
 かり出しに行つた。雪が深くて、ひ
 ざこざうまでもあった。机の上は
 は雪がたふさんつもつてゐた。高
 田先生が、雪かきをしていらつしや
 った。あまりおそく洗に行きたいの
 で、行つてみるゝと、もういすを
 出していらつしやうた。

本部の前まで來ると、八百谷さ
 んが、ず學校でお勉強だから、い
 す運ぶのよ。とおっしゃった。私
 たちは雪の中を、ず學校に向つた。
 朝層なので、おそくに置いたまま
 ず飛んで行つた。

算数の時間は、途中から、山口先生
 がいらつした。イロイロナ問題の
 お答をあはせていただいた。
 國語の時間も算数をした。
 御飯の時に、神尾先生が御飯

月二日 検

がすんだらう手ぬぐひだけ持つて

いらっしやい。とおっしゃった。

御飯がすんでから、すぐ行った。

からだをしめらすといふのに、とて

もあつてたまりないので、みんな

きやあそやあといつてゐた。すると

先生が、バケツに熱いお湯を汲み

出して、水を入れて下さった。そ

でもあつたので、雪を四五はけ入れて

いただいた。やつとはいふやうに

なつたので、はいた。手ぬぐひで、か

たのあたりから、むねのあたり

まで、なでた。とてもあうちの思ひ

出がした。

午後、日記や算、数を書いた。

夕飯は、ライスカレーだった。



二月二十七日火曜日

今日は高橋さんのおたし生日だ。

朝御飯の時、みんなでお目出たう

御ざいます。と言った。

朝會は、さい藤先生がこちらへ来

ておきて、ざ學教でした。

一時間目は、短しやうで二十分だった。

二時間目は、直角三角形や、矩形

の面積をた。

音楽の時間も自習で、お手紙を

書いた。

六時間目の理科の時は、自習だった。

六人の方が、たくさんふうとうを作つて

いらっしやった。有賀先生が、一部四

で書く日記をわら半紙でとして、い

らっしやった。

夕方、真白な雪の上を小壽鶏が

よんちよんちよんと七羽ぐらゐ一列に

なつて歩いて行った。とておかしいの

で、よこまげ行つて見たやうに思はれた。





食事當番の時おつゆに油がいつぱい浮いてゐたので、先生に「油です」と言ふと、「ぶた肉ですよ」とおっしゃつた。私は、お部屋に持つてはいつて、ぶた肉がはいつてゐるかと思つて、ひしゃくでかきまわしても出て来ません。御飯の時先生に「ぶた肉がはいつてゐません」といふと、先生は「ここに」とお笑ひになりながら、「くぢらは味開学園のぶたです」とおっしゃつた。私は、おかしくておかしくてたまらなかつた。

晩、三月三日にする發表會のことをいろいろと考へた。どうやらする物がきまつた。高嶋さんがレコードのかはりに何か歌を歌ふことになった。せつかく考へつたところ、高田先生が「いりう床用意」とおっしゃつた。「ああああせつかくきまつたのに、

就寢用意

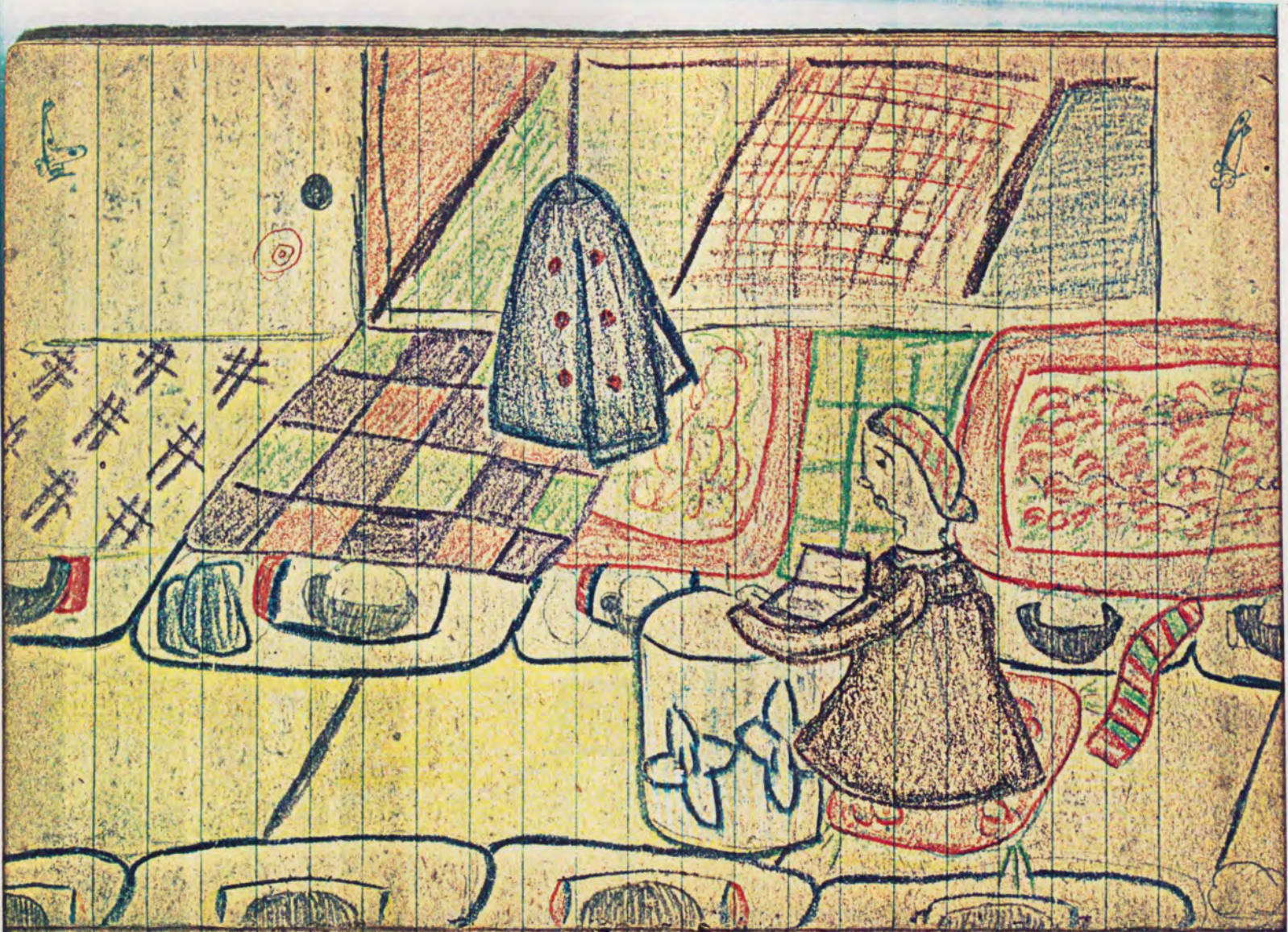


つまらないなあ」と思つた。ぬどこにはいつてから、「先生本夜の時のお話をして下さい」とか、「國民學校のお話をして下さい」とか言つてすこしねだつてしまつた。先生が、米村さんとかおっしゃる方のお話をして下さつた。

少しすると高田先生が、お火鉢を持つていらつした。さうして、この間も續きの「紅いハート」といふのをしつていただいた。るり子さんの本當のお母様が見つかつたので、私までうれしくなつてしまつた。このお母様でも紅いハートのやうな物で書いてなくても思つていらつしやるそれはお母様がおなくなり人にならなくはわからなかつた。高田先生がおっしゃつたので、私は、どうか早くわかりませうやうに。とおふとんの中で、さかんに祈りつた。

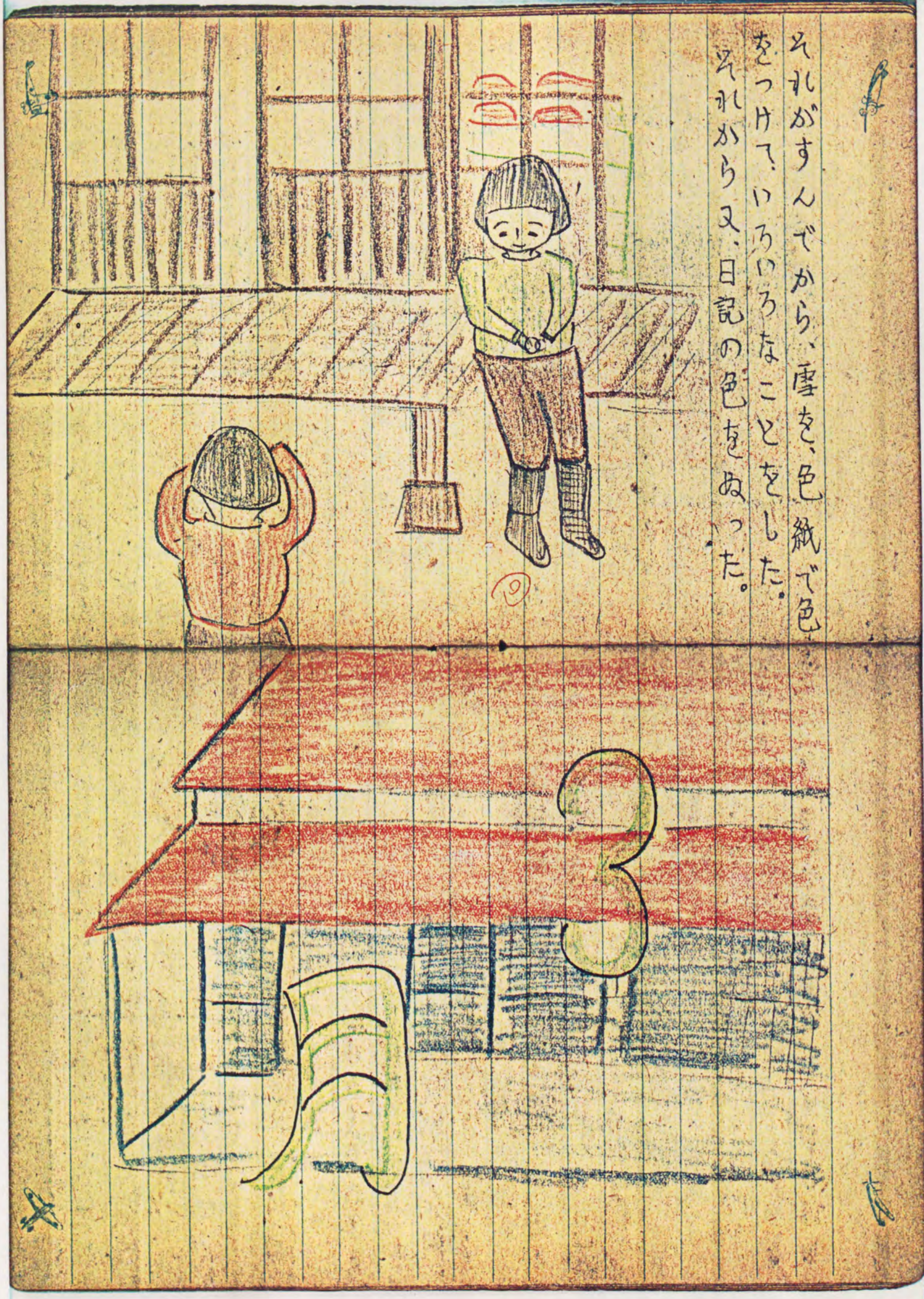
大事なのは、お母様をすもものね、千代もといふ人の子のたのみのうたのほろり





二月二十八日水曜日
 午前中、五六年の方が、お米の配
 給にいらした。二時間目は、め
 んなで、げきのおけいこをした。三部
 六年の柳川さんに長ぐつをかし
 てあるので、食卓、当番の方といっ
 よに待ってゐた。
 歸っていらしたので、すぐかへし
 いた。だいて、女樂學校へ歸った。
 みなさんが、目なたぼっこをしていら
 ぶしやったので、ぬももて暖かた。
 午後から、日のあたる暖い所で、日
 記をかいた。三部三・四年の方がお
 庭で面白そうに遊んでいらした。
 やるのを見て、書かけのをちよつとふ
 せて、長ぐつをはいて庭へ出た。
 顔を雪につけると、とても氣持が
 よかった。面白いので、雪の上を駆け
 まはった。大は喜び度かけまはる
 猫はこたつで丸くなる。と歌った。

それがすんでから、雪を、色紙で色
をつけて、いろいろなことをした。
それから又、日記の色をぬった。



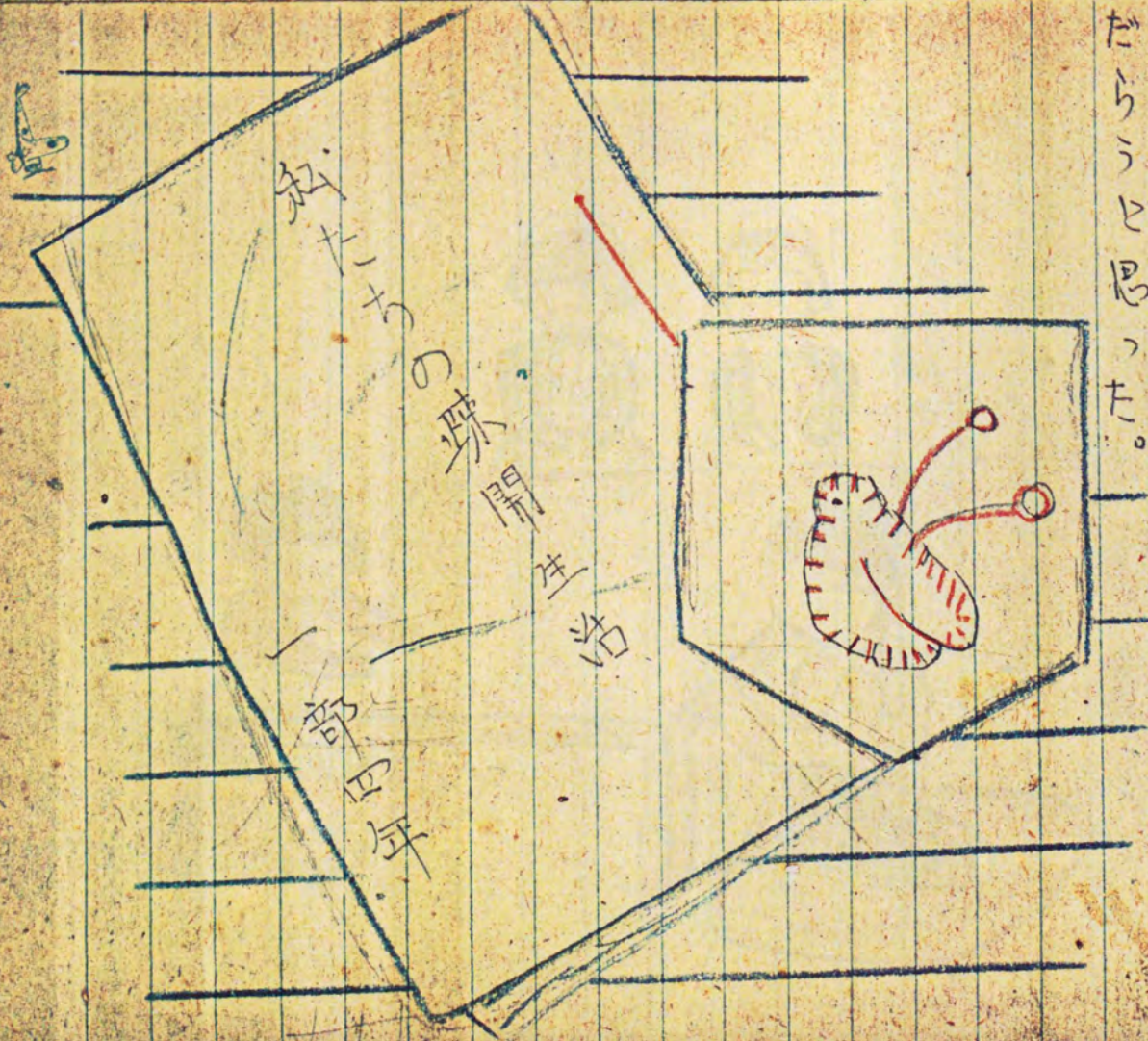
三月一日水曜日曇

今日から、三月だ。今月も又いつかり生活しやうと思った。とても春らしかった。一時間目は先生がいっぱいしゃないのだから、たやくつのげきのおけいこをした。私と高島さんと、二人で、ことばを書いて、口だけで、坂口さんと、八百谷さんと高島さんとでおけいこをした。いよいよ動きをつけてやった。途中でつかへて、ことばを書きこんでゐると、みんなが早くしなさいよとささる。あんなにあそんでゐたせに、とおこったやうにおこした。私は、私と、高島さんだけで考へてゐるのに、みんなは一つも考へてくれないで、おこつてもしゃうがない。と思った。私は、お母様の心に書いてある。ルリ子さんのやうに心のやさしがりっぱな人になり、今までのすぐおこつたが、今度から少しのことでおこらないことにしようと思った。

五時間目のおさいはうの時間は、三部の

方がこちらへいらして、ポテットの市置きししゅうをした。私は、鳥が帽子をかぶつてゐて、風船をつけてゐるのをした。途中で、有賀先生が、お風呂へいらつしやい。とおこした。私は一番びりからのこのとと出て行った。あふうから出て、又市置きししゅうのつづきをした。小林さんが、一部四年の方治れうです。とおこした。有賀先生が、船頭さんから治れうに行つていらつしやい。とおこした。いよいよ治れうの番になった。野村さん、腹いしよに、えい生室に行つた。お鰯の所をお見せするとき、すぐたいてやうなあわしいやうなはづかしやうな気がした。野村さんと近藤先生と、私と、三人で笑つてばかりゐた。テラポールなんこうをつけていた。たいた時はひやりとした。近藤先生があへそのことを防空ごうだ。とおこした。たのでおかしななつてしまった。

それから、一節四年では毎日記をかりた。昨日した顔つけの意をかりた。先生がごらんになったらお笑ひになるだらうと思った。



三月二日 金曜日 晴

野村の時間に梯形や、平行四辺形の面積を出したりした。二時間目は、発表層のあげのこをした。

エ作の時間は、ボール紙で紙ばさみを作った。

四五時間目は、又、発表層のあげのこをした。

六時間目は、おさのほうで、市置をいしりうをあげた。とてもへんななになつてしまった。太きくなつてから、これは二年生で作ったものか、と思ひ出すだらうと思った。

晩向かふのお部屋の方のを見たり、見つけたいたたりして、練習をした。それから、お足鉢に當った。とてもあたたかかった。

が、いつものほころびてぬる所をぬった。早く、この前かけをかりて、御飯をいただいたり、お味汁を

けたりしたいなあと思った。
 いやいや明日は、発表會だ。とて
 うれしく、なかなかな眠れなかつた。



このお装面の反省
 繪が少しらんざつ
 だつた。

2 字がきたない。

3. 始めのうちはえが
 みじかすぎた。

4. 字が少しまちが
 つてゐた。

5. もつときーちん
 とめかう。

三月五日 検

よい日記
はなりましたね
今度は
いふなりとかき
ませうね

を

は

